

定期上映会 戦傷病者の証言～飛行兵編～

飛行兵として軍隊生活を送り、戦闘や航空事故で受傷した戦傷病者の証言映像を上映します。

上映場所：しょうけい館 1階 証言映像シアター

上映期間：2021年12月7日（火）～2022年1月30日（日）

上映時間：10：00～17：00

四肢を火傷・・・二度と操縦桿を握れなかった

毎時 0 分
より上映

志願して陸軍少年飛行兵となる。昭和20年4月、沖縄の宮古島で搭乗していた爆撃機の離陸時の炎上事故により顔・両手・両足に大火傷を負う。その後、病院での療養中に肋骨カリエスを発症し手術を受ける。半年あまりの闘病生活を経て、昭和21年3月に復員。顔の火傷は目立たなくなったが、左手小指は手の平にくっついたままなので不便や労苦を感じるという。

生と死に向かい合った2時間

毎時 14 分
より上映

昭和18年3月、予科練習生として飛行訓練中墜落事故により右足を負傷し、1年間の入院生活を送る。ブーゲンビル沖海戦に仲間が飛び立つのを焦燥感をもって見送る。19年11月、傷も癒え原隊復帰、サイパン特別銃撃決死隊の偵察機に搭乗。帰還の術無い同隊12機を引率し見守った辛さは言い難い。昭和40年頃、自分が写っている「第一御盾特別攻撃隊」と記された写真に出会い、隊員の情報調査を決意、漸く「甲飛八期のあゆみ」を上梓した。

練習機「赤トンボ」の特攻隊

毎時 24 分
より上映

昭和18年6月、14歳の時に海軍甲種飛行予科練習生を志願し、同年10月に鹿児島海軍航空隊に入隊。操縦練習生として様々な飛行訓練を積んだ後に、昭和20年2月に四国の観音寺海軍航空隊に配属となる。夜間飛行や敵艦に体当たりするための特攻訓練を重ねていたが、昭和20年7月19日、乾龍特別攻撃隊として鹿児島の国分基地に93式中間練習機（通称：赤トンボ）で向かう途中に、計器の故障のため意識を失い宮崎県霧島山高千穂峰山中に墜落。両足を負傷し3日間は意識不明の重体となるが、地元の捜索隊の救助により助かった。

見た目にはわからないつらさ

毎時 40 分
より上映

15歳で海軍航空隊に志願。昭和13年、爆撃手として97式艦上攻撃機に乗り込み、日中戦争に参加。昭和16年、真珠湾攻撃に参加。翌年、セイロン島（スリランカ）東岸沖にてイギリス戦闘機の炸裂弾が目に入り受傷。その後、横須賀海軍病院にて本格的な治療を受け、義眼を装着。退院後、教官として後進の指導にあたる。徳島の航空隊で終戦を迎え、故郷に帰るものの、茫然自失の毎日を送る。仕事に就けない状況であっても、戦友や戦場に送りだした学生を忘れたことはなかった。やがて気持ちを切り替え、農業の振興と地域貢献に尽力する。

- ◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。
- ◆団体プログラムにより変更となる場合もあります。